

学内施設等

CAMPUS FACILITIES

フクニチャージ図書館(附属図書館) FUKUNICHARGE LIBRARY (UNIVERSITY LIBRARY)

蔵書数 BOOKS AND PERIODICALS

2026.3.31

和書 Domestic	洋書 Foreign	計 Total	雑誌 Periodicals		
			和書 Domestic	洋書 Foreign	計 Total
746,289	238,676	984,965	10,973	2,732	13,705

令和7年度利用状況 UTILIZATION

区分 Division	人数 Persons		冊数 Volumes	
	年間 per year	一日平均 per day	年間 per year	一日平均 per day
館外貸出 Loan	11,539	37.6	23,669	77.1
学類学生 Undergraduates	8,811	28.7	17,008	55.4
大学院学生 Graduate Students	1,285	4.2	3,066	10.0
教職員 Faculty and Staff	1,236	4.0	2,940	9.6
学外者 External Users	207	0.7	655	2.1
入館者数 Number of Visitors	192,099	626		

開館日数 307日 Open 307 days
(内土曜日43日) Saturday 43 days
(内日祝日33日) Sunday and holiday 33 days



フクニチャージ図書館(附属図書館)
FUKUNICHARGE Library (University Library)

☆福島大学は、福島日産自動車株式会社とネーミング・パートナー契約を締結し、附属図書館の愛称を「フクニチャージ図書館」としている。



フクニリーディングルーム(開架閲覧室)
FUKUNICHI Reading Room



アリアcommons(ラーニングcommons)
ARIYA Commons (Learning Commons)

文庫

Book collections

●大塚久雄文庫

The Hisao Otsuka Collection

故大塚久雄先生旧蔵の図書・雑誌・資料を受贈。その数、合わせて図書6,058冊、雑誌約212タイトル、抜刷約1,682点、その他、ノート、原稿、講演テープ、色紙、写真、住所録等個人資料一山。個人資料の一部は、デジタルアーカイブで公開。

●今野源八郎旧蔵書

The Genpachiro Konno Collection

故今野源八郎先生旧蔵の図書・雑誌・資料を受贈。その数、和洋合わせて図書4,455冊、雑誌294タイトル、資料13,553点、その他、パンフレット、リーフレット、地図、抜刷、コピーなど一山。

●その他

吉原文庫、藤本文庫、藤田文庫、栗原文庫、二宮文庫、大森文庫、川村重和教授旧蔵書、松井秀親教授旧蔵書、三宅皓士教授旧蔵書、岡本友孝教授旧蔵書、佐藤恒久教授旧蔵書、珠玖拓治教授旧蔵書、下平尾勲名誉教授旧蔵書、小林昇資料等。

大型コレクション

Large collection

●19～20世紀ロシア・ソビエト研究稀観資料集

19th–20th century Russian and Soviet rare materials collection

●ロシア帝国・ソビエト連邦法令集

Collection of laws and ordinances of the Russian Empire and Soviet Union

●帝政ロシア及び現代ソビエト社会・経済研究 第1部、同第2部

Imperial Russian government and contemporary Soviet society: Economic research part 1 and 2

●体育教育の歴史

A collection of rare books in the history of physical education. EDUCATION FOR HEALTH & PUBLIC WELFARE; from the "survival of the fittest" to "fitting the many to survive"

震災関連資料コーナー

Earthquake disaster related materials corner

東日本大震災の関連資料をはじめ、震災を原発・ボランティア・郷土・教育・科学・防災・産業など多様な観点から扱った資料を配置。図書・雑誌・視聴覚資料など2026(令和8)年5月現在10,300点。

情報基盤センター Information Technology Center

情報基盤センターは、1969(昭和44)年に学内共同利用施設「計算センター」としてスタートした。その後、1987(昭和62)年に学術研究・情報教育の高度化・多様化、社会における一層の情報化進展に対応するために、「情報処理センター」に改組、さらに2003(平成15)年には教育研究・地域連携のための情報発信など多様な役割を担うべく省令施設に格上げされ、「総合情報処理センター」となった。2022(令和4)年には、遠隔授業実施やBYOD導入等、ICT環境の大幅な変化に伴い、センターに求められる役割、業務が大きく変革し、従来に増して学内の情報基盤や情報セキュリティ対策の整備運用を行うことから、「情報基盤センター」に名称を変更し、さらなる機能強化を図っている。

本センターは、「キャンパスネットワーク(FAINS:フェインズ)の運用・管理」、「本学の認証基盤となる全学認証システムの運用・管理」、「情報システムの利用についての技術指導」の他、全学的な情報セキュリティに関する業務を行っている。



地域未来デザインセンター Community Future Design Center



福島大学では、「地域創造支援センター」と「うつくしまふくしま未来支援センター（以下、両センター）」を発展的に統合し、2022（令和4）年4月に新たに「地域未来デザインセンター（以下、「デザインセンター」）」を設置した。

デザインセンターでは、両センターの事業を継承するとともに、地域課題解決に向けた研究及び社会貢献を一層進めるために、地域・企業・自治体などと連携し様々なプロジェクトを起こしながらそれらを社会に提案し、地域創生に寄与することを目的としている。

さらに、学生含め学内外の人々が語り合い・アイデアを出し合う場と機会を創出するイノベーションコモンズを整えながら、福島の未来をつくるイノベーション人材を育てることも目的としている。

環境放射能研究所（IER） Institute of Environmental Radioactivity



環境放射能研究所は、福島第一原発事故後の放射性核種の挙動を調査・解析する目的で2013年に設立された。国内外の大学・研究機関と連携し、大気、森林、河川湖沼、海洋など広範囲な研究分野をカバーしている。研究の成果は、放射線防護や効果的な除染方法の策定、住民の帰還や農林水産業をはじめとする産業の復興など、より具体的な復興活動の基礎となるほか、国際的な知見の共有も求められる。

2019年度に文部科学省「共同利用・共同研究拠点」に認定され、国内外の研究者と共同研究を展開している。また2023年度からは福島国際研究教育機構（F-REI）の事業に参画し、原子力災害に関するデータや知見を集積・発信している。

教育では2019年度に環境放射能学専攻修士課程を開設し、2021年度からは博士前期・後期課程の大学院教育を担っている。

今後も国内外への発信力の強化、次世代の環境放射能分野の課題を担う人材の育成を行っていく。

人間発達文化学類附属学校臨床支援センター School Clinical Support Center

教育相談部門と現職研修部門の2部門から成る。

教育相談部門は、教育臨床研修講座などを中心に、心理職・教員等の支援技術向上を支援するとともに、臨床心理・教育相談室を併設して子ども・大人の心の悩みについての相談を有料で行っている。また大学院、地域デザイン科学研究科人間文化専攻人間発達心理コース臨床心理領域の大学院生の教育にも協力している。現職研修部門は年2～3回、もしくは通年で開催している教職員研修講座の実施を中心に、福島県教育庁、市町村教育委員会、各学校の研修支援、先生方の授業づくり支援等を行なっている。また、教職実践研究科の院生の教育にも携わっている。2部門ともに、附属学校園を含む学校の教育・研究支援を行っている。また、特別教室と授業分析室の施設があり、広く活用されている。



共生システム理工学類附属水素エネルギー総合研究所 Hydrogen Energy Research Institute



水素エネルギー総合研究所は、2024年4月に共生システム理工学類附属研究所として設置された。

本研究所では、福島県の重点課題の一つである水素・再生可能エネルギーに関する教育研究を推進するため、水素を中心とした再生可能エネルギーの製造、貯蔵・輸送、利用、管理という一連のエネルギー循環を強く意識した研究および専門人材育成を行う。

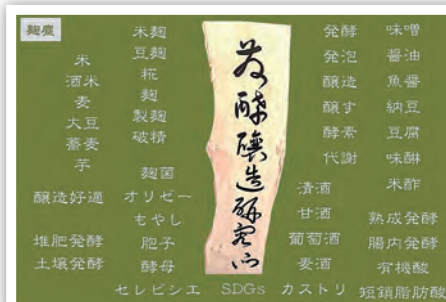
2025年度から、内閣府「地方大学・地域産業創生交付金事業」（事業名：バイオマス由来水素・炭化物製造システムが導く地方創生）を開始するとともに、日本学術振興会「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業」（担当課題：グリーン地方創生プラットフォーム）に連携大学として提案大学の山梨大学と共に進めている。

食農学類附属発酵醸造研究所 Institute of Fermentation Sciences

発酵醸造研究所は、2021(令和3)年4月に食農学類附属研究所として設置された。研究所にはフードチェーンに沿って「①素材生産・環境部門、②発酵醸造食品部門、③食健康・社会実装部門」、また部門横断的な位置付けで大容量の情報・データを扱う「④データ科学部門」が配置されている。発酵醸造の総合的・学際的な研究プロジェクトを推進するため、4研究部門を統括する「研究統括部門」を配置し、研究所の管理・運営を行っている。

発酵醸造素材作物の生産から発酵微生物、発酵醸造食品とその機能までを包含する総合的な基盤研究を展開している。

また、地域の農林水産業、食品関連産業に関連する課題解決型研究(ローカル)プロジェクトを産官学連携による橋渡し研究として推進する。さらにこれらの成果を国際的な課題、地球規模の課題の解決にも繋げる学際的な先端(グローバル)研究として発展させることを目指している。



教育推進機構 Organization for the Promotion of Education

教育推進機構は、福島大学の教育理念と目標に基づき、本学の学士課程教育及び大学院課程教育の改善・充実を図るとともに学生の確保、国際交流、学生支援及び就職支援に関する調査・研究、企画立案及び実施を全学的に行うことを目的として、2019(平成31)年4月に設置した。本機構には、保健管理センター、国際交流センター、アドミッションセンター、教職課程センター、キャリアセンターを置いている。

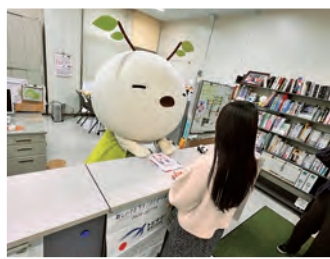
保健管理センター Healthcare Center

1981(昭和56)年4月に設置され、1982(昭和57)年3月に専用の建物が竣工。同年4月より本格的に業務が開始された。本センターには、医師・保健師・看護師が配置されており、学生及び教職員の健康の保持増進を図るために、保健管理に関する専門業務を行っている。具体的には、保健管理計画の企画及び立案、定期及び臨時の健康診断の実施と事後対応、精神的及び身体的健康相談、外傷・急病の応急処置、カウンセリングなどである。

また、月に一度、外部より、婦人科の医師(女性)が来所し、専門の相談に応じている。



国際交流センター International Center



国際交流センターは、①海外の大学等との学術交流及び学生交流の企画・推進、②留学生教育の企画・立案、③教育研究面での国際交流を図ることを目的として、2012年(平成24年)4月に設立された。

本センターでは、学生の派遣及び受入、短期留学プログラムの企画・立案及び留学生の修学上・生活上のサポートを行っている。留学生用宿舎である国際交流会館の管理運営も担当している。

センター内では、本学と学術・学生交流協定を締結している大学の情報や、留学の報告書なども閲覧することができる。

さらに、留学や語学学習に関する図書の貸出や、希望者には語学試験対策も提供している。留学に関わる生活や学習の相談、在留資格、地域のイベント案内、手続きなどもここで確認することができる。

アドミッションセンター Admission Center

アドミッションセンターは、アドミッションポリシーに応じた入学者選抜を実現するための具体的方策を企画・立案し、円滑な入学者選抜の実施を図ることを目的に、2016(平成28)年4月に設置された。

本センターは、高大接続改革の環境変化の下、本学が実施すべき選抜制度の実現にむけて、入学者選抜に係る調査研究、入学者選抜結果の分析及びその評価を行うとともに、新たな選抜制度を検討し、学類と連携協力して入学者選抜に係る企画・立案を行っている。併せて高大接続部門として、教育・研究による高校と大学の接続にむけて活動(進路講演、探究学習支援、高校教員との研究会等)している。



教職課程センター Center for Curriculum of Teacher Education

全学的観点から教職課程の運営および連絡調整にあたる組織として2022(令和4)年4月に教職課程センターが設置され、教職課程を有する5つの学類の連携や各種調整業務を行っている。

センターの主たる業務は①本学の教職課程の各段階において到達すべき基準「福島大学教職スタンダード」に基づく教職課程のカリキュラム・マップの策定、②教職履修学生の学習成果の記録と活用のための「教職履修カルテ」等のシステムの整備、③教職FD研修会の開催、④教職課程の自己点検・評価と結果公表などがある。

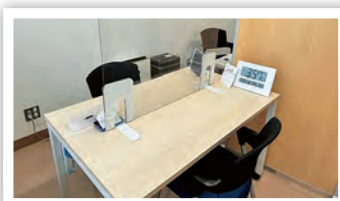
キャリアセンター Career Center

キャリアセンターは、大学における学生の多様なキャリア形成を図り、就職活動を支援することを目的として、2022(令和4)年4月に設置された。キャリア教育部門、キャリア支援部門、渉外部門の3つの部門を設け、学類・大学院の教員と連携し、就職先等の開拓、情報共有を行い、学生が自らライフプランを考え、納得して進路決定ができるよう、学生の成長をサポートすることを目指している。学生向けには、キャリア相談員による書類添削、模擬面接を含めた個別相談を行っており、その他にも、OB・OG紹介、就職に関する書籍の貸出、ガイダンス・セミナー・合同企業説明会を企画・実施している。

また、企業等からの求人・アルバイト受付の他、採用担当者との面談も行っており、採用担当者とともに本学学生を対象とした学内個別説明会を開催している。



アクセシビリティ支援室 Accessibility support room



アクセシビリティ支援室は、障がいのある学生の支援を行うことを目的として、2015(平成27)年4月に設置され、障がいや疾患のある学生が他の学生と同じように大学生活を送ることができるための修学上の支援(合理的配慮)を行っている。

学生や保護者からの相談、授業担当教員や関係部署間のコーディネート、学外の社会資源との連携のもと配慮を実施している。

また、PCノートテイク講座の開催や学習サポート、冬期間の除雪活動などの支援者となる学生サポーターの養成・派遣も実施しており、学生同士で助け合う相互支援の経験を通してお互いの協同する力をつけていくことを目指している。

学生総合相談室 Student Counseling Office

学生総合相談室は、修学、生活、健康等の学生が抱える学生生活に関する問題・悩みなどへの支援体制を一本化し迅速に解決することを目的として、1998(平成10)年7月に設置された。

学生が大学生活で出会う様々な悩みや相談に対して、専門のカウンセラー(公認心理師・臨床心理士)及び本学職員が対応している。学生の話聞きながら、気持ちを整理し自分を見つめ直すサポートをするとともに、必要に応じて学内の適切な部署への紹介も行なっている。

また、居場所作り支援として談話室を休憩や勉強できる場として開放することや、仲間づくりを目的としたイベントや講座等を実施し、困ったときに相談しやすい環境づくりに努めている。



「地域×データ」実践教育推進室 Center for Region × Data (Data-based Regional Studies)



令和5年4月、教育推進機構内に新設されました。地域の現場に根差しながら課題を実証的に発見・分析・解決する力を身につけ、地域におけるEBPM(Evidence Based Policy Making: 証拠に基づく政策立案)に精通した人材の育成をミッションとし、全学的な実践教育プログラムである「地域×データ」実践教育プログラムの開発・運営を行っています。福島大学の強みであるフィールドワークなど「地域実践教育」と、これからの時代の人材に求められる「データサイエンス実践演習」の高度な融合を目指します。

研究推進機構 Organization for the Promotion of Research

研究推進機構は、福島大学における教員の個人的及び集団的研究活動並びに地域社会との円滑な連携協力活動を支援するとともに、本学の知的財産の保護、育成、管理及び活用を効率的に推進することにより、本学の研究活動の活性化並びに社会貢献を積極的に果たしていくことを目的として、2005(平成17)年5月に設置された。研究活動推進、地域連携及び知的財産に係る学内組織と相互に連携し、その総合調整を図る。

学 生 寮 Dormitories



2026.5.1

寮 名 Name	如月寮 Kisaragi Dormitory	信夫寮 Shinobu Dormitory	葵 寮 Aoi Dormitory
構 造 ・ 面 積 Structure・Area	R 5 F 3,466㎡	R 4 F 2,701㎡	R 4 F 2,654㎡
収 容 対 象 Occupants	男子学生 Male	男子学生 Male	女子学生 Female
室 数 Bedrooms	200	150	150
収 容 可 能 人 員 Capacity	200	150	150
現 員 Present Occupancy	173	132	142

大 学 会 館 University Hall

2026.5.1



大学会館
University Hall



大食堂 (Dining ReaF)
Large Cafeteria



大食堂 (Dining ReaF)
Large Cafeteria



Quick Lunchグリーン
Quick Lunch Green

	施設名 Facilitie	面積 (㎡) Area	席・豊数 Capacity
1 階 (1F)	大 食 堂 (Dining ReaF) Large Cafeteria	1,046	700席
	売 店 Shop	294	
	Quick Lunchグ リ ー ン Quick Lunch Green	200	125席
	ロ ビ ー Lobby	98	
	大 集 会 室 Large Assembly Hall	270	250席
2 階 (2F)	小 集 会 室 Small Assembly Hall	35	32席
	//	46	32席
	和 室 Japanese Room	32	12畳
	学 生 総 合 相 談 室 Student Counseling Office	35	
	ア ク セ シ ビ リ テ ィ 支 援 室 Accessibility support room	35	
	カ ウ ン セ リ ン グ ル ーム Counseling room	18	
	//	18	
	学 生 総 合 相 談 室 分 室 Student General Consultation Room Branch Office	22	
	厨 房 ・ そ の 他 Kitchen and Others	1,035	

サテライト等

SATELLITE ETC.

街なかランチ舟場 Machinaka Branch FUNABA



街なかランチ舟場は、2009(平成21)年10月1日、福島市舟場町の職員会館を改修し、教職員の福利厚生施設及び地域との連携を推進する拠点施設として設置され、以下の事業に使用されている。

●地域社会、地域住民の福祉・文化の向上を支援

- 地域の皆様を対象とした公開講座やセミナーなどを開講
- 地域の皆様からの臨床心理・教育相談に対応

●産官学連携事業

- 技術相談、共同研究、受託研究等
- セミナー、会議の開催

●本学教員の教育研究活動

- 講演会、研究会の開催
- ゼミ、フィールド調査時の拠点等



国際交流会館 International House

2026.5.1

名 称 Room	1室当り面積 (㎡) Area	部屋数 Number of Rooms
単 身 室 Studio	12	38
夫 婦 室 One-Bedroom	35	5
家 族 室 Two-Bedroom	52	2
多 目 的 ホール Multipurpose Hall	112	1
和 室 Japanese Room	24	1
ラ ン ド リールーム Laundry Room	14	2
談 話 室 Lounge	14	2
事 務 室 Office	19	1

※ 単身室は主に留学生用、夫婦室・家族室は研究者用



国際交流会館
International House



多目的ホール
Multipurpose Hall

福島大学東京連絡事務所(東京都渋谷区)

Fukushima University Tokyo Liaison Office (Shibuya Ward, Tokyo)

本学学生が首都圏での就職活動やゼミ活動の連絡場所として、また、入試広報等の活動拠点とする目的のため、福島大学信陵同窓会東京信陵会「信陵会館」内に2006(平成18)年4月1日に開設。

地域未来デザインセンター相双地域支援サテライト (富岡サテライト、小高サテライト)

Soso Area Support Satellite (Tomioka Satellite, Odaka Satellite)

地域未来デザインセンターは、東日本大震災及び原発事故に伴い避難を余儀なくされた福島の被災者と被災地域の復興・復興の支援に取り組んでおり、相双地域支援サテライトは、現地と大学を繋ぐ拠点として被災地域に密着した活動を行っている。